

館蔵浮世絵版画展

浮世絵にみる

歌舞伎名場面

KA  
BU  
KI



十八番之内

富樫左衛門

武藏坊弁慶

勸進帳

十八番之内 勸進帳  
三代歌川豊国

Ukiyo-e

2020  
1月3日金 ▶ 3月1日日



新居関所史料館

一幽斎重宣画 安政2年(1855)  
横大判 藤岡屋慶次郎版

元禄14年(1701)の刃傷事件後の赤穂浪士による討ち入りを題材にした仮名手本忠臣蔵の場面を描いたもの。初め人形浄瑠璃として演じられ、後に歌舞伎でも演じられました。

時代背景は足利南北朝に設定されていて、その時代の高師直こうのしろうなおを吉良上野介きちらこうぜいのすけ、塩谷判官えん 谷はんがんを浅野内匠守あさののたくみのかみ、大星由良助おおほしゆらのすけを大石内蔵助おおいしくらのすけに想定しています。

うたがわしげのぶ  
【歌川重宣(二代歌川広重)】

文政9年(1826)～明治2年(1869)

初代歌川広重の門人で、一幽斎、立斎、立祥などといいました。美人画や花鳥画、武者絵のほか風景画を描きました。



### 1 忠臣蔵二段目

塩谷判官が高師直に恥辱を受けた翌日、塩谷判官の使者として大星由良助俵の力弥が若狭之助の館を訪れます。帰ろうとする力弥を見送る小浪。力也と小浪は許嫁の間柄で、襖の陰からは母の戸無瀬がその様子を見守っています。



### 2 忠臣蔵三段目

御殿で塩谷判官が刃傷に及んだとの騒ぎを耳にした早野勘平。恋仲のおかると逢っている最中に、主君の大事に居合わせなかったことを恥じた勘平は、大星由良助に詫言を入れようと山崎へ向かいますが、追っ手が行く手を阻みます。



### 3 忠臣蔵五段目

夫の早野勘平のために遊女になることを決意したおかる。父与市兵衛は前金を携え山崎へと戻る途中、斧九太夫(討ち入りに加わらなかった浅野家家老大野九郎兵衛)の息子定九郎に無残に殺されてしまいます。しかし、その定九郎も早野勘平に誤って撃たれました。



### 4 忠臣蔵七段目

茶屋で遊びふけている由良助のもとへ俵の力弥が塩谷判官夫人の密書を届けます。2階の窓際から遊女となった早野勘平の女房おかるが覗き見しています。床下には高師直に内通した斧九太夫が忍び込んで由良助を探っています。



### 5 忠臣蔵九段目

由良助親子が住む山科に、力弥と祝言のため訪れた戸無瀬と娘の小浪。戸無瀬の夫本蔵は高師直に仕える身分。虚無僧姿の本蔵が現れ、憤って槍で挑みかかった力也の母お石を組み敷きます。本蔵は、母を助けようとする力弥にわざと突かれました。

香蝶楼豊国画 嘉永5年(1852)  
縦大判 恵比寿屋庄七版

江戸時代の天保年間に7代目市川團十郎がお家芸として選定した18番の歌舞伎演目。

外郎壳・嫩・押戻・景清・鎌髭・関羽・勧進帳・解脱・毛抜・暫・蛇柳・助六・象引・七つ面・鳴神・不動・不破・矢の根

【三代歌川豊国(歌川国貞)】

天明6年(1786)～元治元年(1864)

初代豊国の門人。号は五渡亭・香蝶楼など。はじめ国貞を名乗り、後に三代豊国を襲名。美人画やシリーズ化した役者絵を多く制作しました。

6 十八番之内二 象引

「象引」は2人の人物が物を引っ張り合って力くらべをするという荒事の一つ。主人公の山上源内左衛門が敵役の鈴鹿の皇子と象を引っ張り合っている場面。



8 十八番之内四 嫩

離縁された前妻が後妻のもとへ行き乱暴を働くという嫩の風習をもとにしたもの。もののけに悩まされていた光源氏の正妻葵上。早速照日の巫女が呼ばれ、その正体がかつて葵上に辱めを受けた六条の御息所の怨霊だと判明。急いで偉大な力を持つ横川の小聖が招かれ御息所を成仏させるといふものです。



7 十八番之内三 矢之根

鎌倉時代の曾我兄弟の弟の五郎時宗を主人公とした作品。父の敵、工藤祐経を討つため五郎は家で大きな矢の根を研いでいます。そのうち寝てしまうと、夢の中に祐経の館に捕まっている兄の十郎が現れました。五郎は目を覚まし、急いで助けに行くのでした。



10 十八番之内 勧進帳

兄頼朝と不仲になり、山伏に身をやつして奥州へ向かう源義経。加賀国安宅の関で関守の富樫左衛門に見とがめられます。弁慶は機転で偽りの勧進帳を読み、さらに主君義経を激しくたたきます。それを見た富樫は、弁慶の苦渋の決断に関所を通しました。



9 十八番之内十二 解脱

上総七郎兵衛景清は平景清とも呼ばれ、勇猛な人物でした。その娘の人丸が嫉妬して男を追って釣鐘の中に入ると、景清の亡魂が娘の姿を借りて薄衣をかぶって出現。恨みと迷いの振りのすえ解脱して景清の姿になって消えました。





## 11 一世一代

春好齋北洲画 文政8年(1825)頃  
縦大判 版元不明

豊臣氏の滅亡につながった大坂城の落城を扱った作品の「義経腰越状」の場面を描いています。演目には義経とありますが、豊臣秀頼が義経に、徳川家康は源頼朝に、真田幸村が義経の大老泉三郎に置き換えられています。主人公は五斗兵衛で、豊臣方の武将後藤又兵衛です。又兵衛は大酒飲みの豪傑で知られていたようで、酒樽を抱えています。

和泉ノ三郎(市川鰈十郎)・五斗兵衛(中村歌右衛門)

【春好齋北洲】

生没年不明

大阪の浮世絵師。松好齋半兵衛の門人で、後に葛飾北斎に入門したといわれています。はじめ春好、後に春好齋、雪花亭を名乗りました。役者絵を得意とし、中でも大首絵や芝居絵を得意としました。



## 12 役者絵

国貞(二代歌川国貞)画  
元治元年(1864)  
縦大判3枚続 伊勢屋兼吉版

【歌川国貞(二代歌川国貞)】

文政6年(1823)~明治13年(1880)幕末から明治にかけて活躍した絵師。はじめ国政を名乗り、初代国貞(三代豊国)の娘婿となり国貞の名を継ぎ、さらに四代豊国の名も継ぎました。版本の挿絵のほか役者絵などの揃物を多く残しています。

芸者おてう(中村いてう)・太鼓持つるの丸伝三(中村芝翫)・金石楼の主人(河原崎権十郎)・かむろ片貝(岩井久次郎)・大磯屋の千鳥(河原崎国太郎)・若者えんま平三(山崎巴二右衛門)



## 13 義経千本桜

国貞(二代歌川国貞)画  
慶応3年(1867)  
縦大判3枚続 伊勢屋利兵衛版

義経に滅ぼされた平家の知盛、維盛、教経らが生存し、復讐を企てるという内容で、静御前や佐藤忠信らを絡めて脚色した物語。義経のもとを訪れた家臣の忠信。実は忠信に化けた狐で、義経は妾の静御前に鼓を打たせ、狐であることを白状させます。忠信に化けた狐は鼓にされた狐夫婦の子どもで、同情した義経は源九郎の名とともに鼓を与えました。

しづか御ぜん(岩井紫若)・源よし経公(沢村訥升)・源九郎狐(中村芝翫)

よしつねせんぼんざくら  
14 義経千本桜

豊斎（三代歌川国貞）筆  
明治 38 年 (1905)  
縦大判 3 枚続 堤吉兵衛版

うたがわほうさい ぼいどくくにまさ  
【歌川豊斎(梅堂国政・三代歌川国貞)】

嘉永元年 (1848) ~ 大正 9 年 (1920)  
初代歌川国貞に学び明治 22 年 (1889)  
三代国貞を襲名。梅堂、一寿斎、香蝶楼、  
応需などのほか豊斎とも号しました。主  
に文明開化絵や役者絵を描きました。



狐忠信 (沢村訥升)・静御前 (中村芝翫)・判官源義経 (市川小団次)



はいゆう みたて  
15 俳優見立東海道五拾三駅

国周画 元治元年 (1864)  
縦大判 5 枚続 越前屋嘉十版か

各宿場から連想される歌舞伎の登場人物とその  
配役にふさわしい役者を見たてて描いたもの。

とよはらくにちか  
【豊原国周】

天保 6 年 (1835) ~ 明治 33 年 (1900)  
豊原周信及び歌川国貞 (三代豊国) の門人で、明治初年に役者  
大首絵を多数制作。その後も伝統的な様式による役者絵や 3 枚続  
きの浮世絵を制作しました。

いちのたにがいかのこうたい  
16 一谷凱歌小謡曲

国周画 元治元年 (1864)  
縦大判 3 枚続  
海老屋林之助版

もと木曾義仲の家臣で今は源氏に仕えている根の井左衛門。源範頼の上意により義仲の息女 笹鶴姫の自害の検使役として新宮家を訪れます。新宮家の 2 人の娘のうち紅梅が笹鶴姫の身代わりとなり根の井左衛門に打たれます。しかし、実は紅梅は根の井の娘という設定。



新宮小太郎 (中村福助)・根の井左衛門 (市川小団次)・姫紅梅 (坂東三津五郎)



竜王太郎（市川左団次）・菊王丸（尾上菊五郎）・雲竜九郎（市川團十郎）

17 きじゅつそろいさんになんどうじ 奇術揃三人童子

豊原国周筆 明治 11(1878)  
縦大判3枚続 瀬川虎吉版

左は女妖怪師の化けた竜に絡みつかれ、刀に映して見破る竜王太郎。中央は「平家物語」に出てくる平教経の童で、はじめ平通盛に仕え、通盛死後、義経に仕え屋島の戦いで死亡した菊王丸。右は妖術によって竜を操る盗賊で、江戸後期の物語に登場する雲竜九郎を描いています。



おしづ（尾上菊之助）・浮世戸平（坂東家橘）・提婆の子分大蔵（中村伝五郎）・野晒語助（片岡我童）・提婆の仁三（尾上菊五郎）・小田井（岩井松之丞）

18 すいぼだいしんしゅのまたろく 酔菩提新酒又六

豊原国周筆 明治 18(1885)  
縦大判3枚続 猶葉周平版

通称「野晒悟助」。侠客の野晒悟助は、提婆の仁三郎の子分に因縁をつけられている土器売りの詫助と娘おしづ、それに扇屋の娘小田井を災難から救います。貧しい家柄のおしづと、裕福な家柄の小田井の2人の女性から惚れられる男らしく優しい悟助。ここに浮世戸平が現れ悟助と喧嘩になったり、悟助をめぐる恋模様が描かれます。



熊谷次郎直実（市川團十郎）・小はぎ実ハ敦盛（中村福助）・かつら子（市川金太郎）・姉輪平治（市川左団次）

19 おうぎやくまがい 扇屋熊谷

豊原国周筆 明治時代  
縦大判3枚続 版元不明

平家の都落ちの際、平忠度、敦盛が、源氏の岡部六弥太、熊谷直実ただのり あつもりにそれぞれ命を救われたことをもとに、滅びゆく平家に対する源氏の同情を描いた内容。平敦盛は家来筋にあたる五条の扇屋若狭のもとに、扇折の小萩と称し女装して身を隠していましたが、青葉の笛のことから源氏方に知れ、姉輪平次が召捕りに来ます。折から扇を買いに来た熊谷がこれを救い、敦盛を慕う若狭の娘桂子を身替りに立てるのでした。

うめのはるたてしゆのごしよぞめ  
20 梅春侠客御所染

梅堂国政（三代歌川国貞）筆  
明治20年（1887）縦大判3枚続  
長谷川園吉版

浅間巴之丞めかけほととぎすの愛妾 時鳥が後室百合の方の恨みを買って殺される「時鳥殺し」が前半の中心、後半は御所の五郎蔵が誤って時鳥の妹の傾城逢州を殺し女房さつきと共に自害するという内容です。



愛妾時鳥霊（中村福助）・傾城逢介（岩井松之助）・浅間巴之丞（坂東家橘）・御所五郎蔵（尾上菊五郎）

やっこだかさとはるかせ  
21 奴風廓春風

応需香朝楼（三代歌川国貞）筆  
明治25年（1892）縦大判3枚続  
小森宗次郎版

正月の風物詩の風物詩の一種「奴風」を「曾我物語」と結びつけた舞踊。廓に通う曾我十郎、恋人の大磯の虎などが登場します。



やっこ（尾上きく）・舞つるや悴（尾上里之助）・曾我十郎（中村家橘）・大磯の虎（中村福助）・化粧坂の女将（尾上栄三郎）・奴風（尾上菊五郎）

きいちほうげんさんりやくのまき  
22 歌舞伎座新狂言 鬼一法眼 三略巻 菊畑の場

香朝楼豊斎（三代歌川国貞）筆 明治33年（1900）縦大判3枚続 堤吉兵衛版

若き日の義経（牛若丸）と弁慶の出会いを描いた作品。虎蔵と名前を変え、平家方の鬼一法眼に雇われた牛若丸は鬼一が持っている兵法の極意を記した三略巻を手に入れ源氏の再興を願っていました。主である吉岡鬼一法眼は元々源氏の侍でしたが、鬼次郎と鬼（喜）三太という二人の弟と別れ別れになり、いまは平家に仕えています。鬼一はかつて源氏に恩を受けながら平家についたことを悔やみ、天狗の姿になって牛若丸に剣術を教えたことを話し、牛若丸を慕っている娘の皆鶴姫の婿にして三略巻の一つを与え、鬼一は切腹してしまいます。



娘皆鶴姫（中村芝翫）・御曹子牛若丸（尾上菊五郎）・鬼一法眼（市川左団次）・御厨喜三太（市川八百蔵）

【展示品目録】

No.	展示資料	作者等	年代	形態
1	忠臣蔵 二段目	一幽齋重宣 (二代歌川広重)	安政2年(1855)正月	横大判
2	忠臣蔵 三段目	一幽齋重宣 (二代歌川広重)	安政2年(1855)正月	横大判
3	忠臣蔵 五段目	一幽齋重宣 (二代歌川広重)	安政2年(1855)正月	横大判
4	忠臣蔵 七段目	一幽齋重宣 (二代歌川広重)	安政2年(1855)正月	横大判
5	忠臣蔵 九段目	一幽齋重宣 (二代歌川広重)	安政2年(1855)正月	横大判
6	十八番之内二 象引	香蝶楼豊国 (三代歌川豊国)	嘉永5年(1852)3月	縦大判
7	十八番之内三 矢之根	香蝶楼豊国 (三代歌川豊国)	嘉永5年(1852)2月	縦大判
8	十八番之内四 嫩	香蝶楼豊国 (三代歌川豊国)	嘉永5年(1852)3月	縦大判
9	十八番之内十二 解脱	香蝶楼豊国 (三代歌川豊国)	嘉永5年(1852)閏2月	縦大判
10	十八番之内 勧進帳	香蝶楼豊国 (三代歌川豊国)	嘉永5年(1852)閏2月	縦大判
11	一世一代(和泉の三郎、五斗兵衛)	春好齋北洲	文政8年(1825)頃	縦大判
12	役者絵	国貞 (二代歌川国貞)	元治元年(1864)11月	縦大判3枚
13	義経千本桜	国貞 (二代歌川国貞)	慶応3年(1867)7月	縦大判3枚
14	義経千本桜	豊齋 (三代歌川国貞)	明治38年(1905)	縦大判3枚
15	誹優見立東海道五拾三駅	国周 (豊原国周)	元治元年(1864)正月	縦大判5枚
16	一谷凱歌小謡曲	国周 (豊原国周)	元治元年(1864)9月	縦大判3枚
17	奇術揃三人童子	豊原国周	明治11年(1878)1月	縦大判3枚
18	酔菩提新酒又六	豊原国周	明治18年(1885)9月	縦大判3枚
19	扇屋熊谷	豊原国周	明治期	縦大判3枚
20	梅春侠客御所染 御所五郎蔵	梅堂国政 (三代歌川国貞)	明治20年(1887)1月	縦大判3枚
21	奴胤廓春風	応需香朝楼 (三代歌川国貞)	明治25年(1892)12月	縦大判3枚
22	歌舞伎座新狂言 鬼一法眼三略巻 菊畑の場	香朝楼豊齋 (三代歌川国貞)	明治33年(1900)10月	縦大判3枚

館蔵浮世絵版画展

浮世絵にみる歌舞伎名場面

新居関所史料館

令和2年1月3日発行

〒431-0302 静岡県湖西市新居町新居 1227-5  
TEL・FAX 053(594)3615 Mail sekisyo@city.kosai.lg.jp